

「電動ろくろ」を試してみる(1)

せっかくある電動ろくろ、やってみたいと思っている人も多くいると思うのですが、なんせやってみなければ、何も始まりません。やってみなはれ。スピードはあまり早くする必要はありませんが、遅すぎるとつまらない。ほんのちょっと早いかなと思う程度が快適。そして、やばいと思ったら、回転をゆるめましょう。

電動ろくろの使い方は3通り

1. 土の塊から作る
通常の電動ろくろ



菊練り、土殺し、芯出し等、作るまでに多くのことが必要。伝統的な職人の技。できれば気持ち良いけど……

2. 面倒なことは全部
省いた簡素版



「必要な部分だけ芯出し。」する方法。菊練り不要。土殺し不要。井くらいまでなら普通に作れます。

3. 手ろくろとまったく
同じやり方で使う



普通に土台を作り、紐を積んでいきます。電動ろくろとして使うのは、回してコテをあてるプロセスだけ。けれど、簡単ですぐにできます。お皿を作るなら、電動ろくろが超おすすめ

電動ろくろを使う上で知っておきたい3つ

①



土を上には伸ばして、まっすぐにします。指をクロス。親指を上にはたて、ひじを膝で固定。手に水をつけ、手のひらで両側からはさんでゆっくり締め付けます。

②



作品がぶれた時は、両手で輪を作って、ひじを膝で固定して作品を包むようにすれば、ぶれが取れます。

③



作品を切り離すのは、「しっぴき」を使います。切り離すところを指で印を付け、しっぴきを手前から向こうへろくろの回転に併せて巻きつけ、一周したら、引っ張ります。すると、切れてます。

「電動ろくろ」を使ってみる(2)

ろくろの基本的な動作は単純なものです。最初は、土の厚さの感覚や、ろくろの回転に対して引き上げる速さがわからず苦労しますが、ゆっくりとやってください。できれば、作品の何個かは、断面を見てみて、自分の感覚を確認してください。

①



最初に必要な土の量を決めます。作品の底にあたる部分を、中指、薬指、小指いずれかでくびれを作ります。これを「土取り」と言います。

②



親指1本を土の中心に入れ、ゆっくりと沈めていきます。次に両手の親指で、少し底を広げます

③



左手の親指を内側に入れ、挟むようにして、少しずつ上に引き上げます。右手はそっとあてて、ぶれないようにガイド

④



右手を内側、左手を外側で、ゆっくりと厚さを整え、さらに壁をのばしていきましょう。一番上までいったら、中指同士がくっつくまでひききると、口の高低が出にくくなります。

⑤



高さが違ってきたら、針で切り、なめしをかけます。土取した溝がなくなっていたら、再度溝を入れます。親指の爪を水平にし、溝を作ります、(上を向いていると、器の底が盛り上がります)。溝の下の部分にしっぴきを入れ、切り取ります。土の底の厚さが充分にあると、動かしてもゆがみません。